

震災復興版
Gyro

がんばろう福島

～Voices from Fukushima～



当協会HPをご覧ください。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から3年3ヶ月が経ちました。福島県は一步一步復興に向けて新たな取り組みを進めているところです。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「Gyro(ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行しており、福島県の現状や県内の国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声などを紹介しています。

※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。

福島の風景

福島・タイ交流プログラムの再開(福島市、白河市)

船と翼の会ふくしまが主催する「第6回 夢企画～福島・タイ交流プログラム」が5月29日(木)から6月1日(日)まで実施されました。2007年から毎年行われていた相互訪問事業でしたが、東日本大震災後はタイから福島への訪問中止を余儀なくされ、今年ようやく再開されました。

今年はタイから10名の青年が来日し、ホームステイ体験や日本語学校の訪問、地元青年とのディスカッションなどが行われました。また、福島市立大森小学校訪問では、5・6年生と英語によるタイの紹介や英語を使ったゲームなどの交流会が行われました。児童たちは、タイの文字やユニークな手遊び歌を教わり、タイを身近に感じていました。



福島市立大森小学校5・6年生との交流



歌とダンスを披露するメンバーたち

MOVE FORWARD #ハワクカマイ(福島市)

福島市在住のフィリピン出身者のコミュニティである「ハワク カマイ フクシマ」主催による国際交流イベントが、5月11日(日)、福島市街なか広場で開催されました。主催団体の他、福島市内の国際交流団体によるブース出展があり、各国の料理販売や活動紹介が行われていました。福島県国際交流協会もブース出展し、外国出身のふくしま多文化共生サポーター3名が、異文化理解クイズなどを通して、来場者との交流を行いました。街なか広場の中心にはステージが設置され、歌やフラダンス、ベリーダンス、フィリピンの農村民族ダンスなどの披露がありました。

「ハワク カマイ フクシマ」会長の大倉リンさんは、「今後もイベントなどを通して、福島を明るくしていきたい」と話してくれました。

被災の教訓や防災力を共有(相馬市)

相馬市の「道の駅そうま」の道路情報館内に震災伝承コーナーが設置され、東日本大震災での被害状況をまとめたパネルや被災前後の衛星写真などが展示されています。また、津波により損傷した道路案内標識や時計、机、地震により変形してしまった橋りょうの伸縮装置なども展示されており、地震や津波の恐ろしさが改めて実感させられます。



津波により曲がってしまった道路案内標識

ウィリヤキスントン レークリットさん（福島市在住 タイ出身）

日本で暮らすようになった約1年半後の2011年4月、福島市内の高校へ進学しました。周りに溶け込むことや、日本語の更なる習得と学校の授業についていくことに必死でしたが、いい仲間にも恵まれたおかげで充実した3年間を送ることができました。今年の4月に就職し、新しい環境で毎日奮闘しています。これまで苦しいことや辛いことにぶつかると逃げてばかりでしたが、東日本大震災や日本での生活を通じて、何事も自分で乗り越えないと前には進めないことを学びました。自分と同じような立場の子どもたちには、自分の経験を元に良きアドバイザーになれたらいいなと思っています。



美谷 マリアさん（福島市在住 フィリピン出身）



今年の春から福島県国際交流協会のタガログ語相談員として働いています。20年以上福島市に住んでいるので、久しぶりに母国に里帰りすると「外国人」のような感覚になり、新たに知り得ることも多いです。同郷の方たちの相談には、相手の立場にたった親身な対応ができるようにしたいと思っています。震災直後はあらゆることに神経質になってしまいましたが、周りの方たちの支えのおかげで、気持ちをうまく切り替えられるようになりました。仕事と家事、子育てに毎日慌ただしいですが、心に余裕を持てるようになり、忙しさも楽しめるようになってきました。

ウォン チャンソプさん（福島市在住 韓国出身）

高校生だった2006年の夏、1か月間福島市の家庭でホームステイを体験しました。ステイ中にお世話になった家族や出会った人たちがとてもよくしてくださったおかげで、帰国後日本で勉強し、日本で働きたいと強く思うようになりました。その後偶然にも進学先が福島大学になってとてもうれしかったです。兵役のため2年間休学していましたが、今年の4月に大学に復学しました。日本での生活が再開し、言葉や文化、習慣などをさらに知っていく中で、自分の未熟さにも気づくことがあり、努力し続けていくことの大事さや向上心が芽生えています。



福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）（福島県 HP から抜粋）

福島県ホームページでは、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を日本語、英語、中国語で、県国際交流協会ホームページでは、それらに加え、タガログ語、ポルトガル語、韓国語で随時更新しています。 <http://www.worldvillage.org/>

単位：マイクロシーベルト/時間

日時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2014.6.24 9:00	0.26	0.14	0.10	0.07	0.05	0.12	0.08
測定装置	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約63km	西 約58km	西南西 約81km	西 約98km	西南西 約115km	北 約24km	南南西 約43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所南側広場、郡山市は郡山合同庁舎東側駐車場、その他の市町は各合同庁舎の駐車場です。
※平常値は、県内の平成21年度放射線レベル調査結果です。

お知らせ

〇「ふくしま外国の子どもサポートセンター」のご案内

福島県内に在住する外国出身、外国育ち、または保護者が外国出身者など、外国の言葉や文化を持つ子どもの支援体制を強化するため、包括的な支援を行うセンターを立ち上げました。お気軽にご相談、ご利用ください。

電話：024-524-1315 E-mail: kodomo@worldvillage.org(専用)

発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>